

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：35305
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21520089
 研究課題名（和文） 死の臨床とケアをめぐる比較思想史的研究-キリスト教と仏教における思想的基盤と実践
 研究課題名（英文） A Study in Comparative Philosophy on Dying and Care between Christianity and Zen Buddhism - Philosophical Ground and Practice
 研究代表者 須沢 かおり (SUZAWA KAORI)
 ノートルダム清心女子大学・文学部・教授
 研究者番号：50171195

研究成果の概要（和文）： 死の臨床とケアの思想的基盤について、キリスト教と仏教における文献学的比較研究をおこない、思想的基盤が日欧においてどのような臨床と実践に結びついていくか明らかにした。キリスト教において死は人間の生の条件として捉えられ、生と死を信仰のうちに受け入れる。キリスト教において、死の向かう目標は永遠の生と復活である。したがって死の臨床とケアは、個人が永遠の生と復活に入ることを準備する終末期として重要な意味をもつ。禅仏教においては、苦の現実と生死の苦悩から離れることとして、死そのものに重要な意味を見いだす。生死は涅槃と結びついて理解され、死にゆく人に宗教的な平安と救済をもたらすことが死の臨床とケアの意義として理解される。

研究成果の概要（英文）： This research dealt with the comparative studies concerning dying and terminal care between Christianity and Zen Buddhism on a philosophical and practical level. In Christianity the reality of death is acknowledged as part of the human condition. In the Bible (Ecclesiastes 3:2) "There is a time to be born and a time to die". Eternal life and resurrection is the goal of dying, and therefore, in Christian view one is called to care for the dying and to face personally their own death in faith and hope. Zen Buddhism stresses the importance of death and understands death as a breaking apart of the material of which we are composed. In Buddhism death is merely a path to rebirth in another realm of a pure land. Nirvana is not a transcendental state apart from birth and death. Therefore, when one is facing with death, a caring person may help the person to achieve a peaceful state of mind.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	3,680,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：思想史

キーワード：死、臨床、ケア、キリスト教、仏教

1. 研究開始当初の背景

臨死とケアをめぐる研究は近年、医療、看護学、人文学、社会学、心理学などの諸領域に触手を伸ばし、「死生学」(Thanatology)は医療と人文・社会系との接点となる新しい学問として位置づけられている。2007年より東京大学においてグローバルCOE「死生学の展開と組織化」が進行中である。2006年度には高野山大学にスピリチュアルケア学科が開設され、2008年11月にはスピリチュアルケア学会が設立される予定である。申請者は本務校での勤務の他、2005年度より同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センターの研究員として共同研究に参加し、古今東西の哲学、宗教思想を現代の実践的な諸問題と関連づけて研究する機会を得られた。平成18年度より3年間、科学研究費補助金基盤研究(C)を交付され、「東西の霊性における愛の思想史—古典文献に見るユダヤ・キリスト教の愛と仏教の慈悲」というテーマで研究を進める中で、東西の愛の思想史が向かう実践的方向をつねに見据え、この研究を立ち上げるための予備的研究を進めてきた。その意味で本研究は、申請者がこれまで積み上げてきた研究の延長線上にありながらも、単なる文献学的思想研究にとどまらず、臨床的、実践的な方向性を視座に入れた研究であり、申請者にとって新たな洞察と転換点を見いださうる研究を立ち上げるに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、死の臨床とケアについ

ての問題を比較思想史的に取り上げ、〈死と向き合うこと〉をめぐる東西の哲学・宗教思想を比較検討することによって、死の臨床とケアの思想的基盤を解明し、その思想的基盤がどのように実践に結びついているかを比較研究することにある。本研究は、申請者が長年取り組んできた古典文献にもとづくキリスト教と禅仏教の比較思想史的研究を土台として、文献学的基礎研究を現代的な視座で発展・深化させ、臨床的、実践的アプローチを思想史研究に導入しようとする新しい洞察と着想をもつ研究である。具体的には日本とヨーロッパにおける実地調査にもとづき、死の臨床とケアをめぐる医療・文化・宗教の多様性と普遍性を思想史的に探究しようとすることを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は基本的に次の三つの方法によって進められた。

(1). 死の臨床とケアをめぐる東西古典の文献学的研究：

死の哲学、死を看取ること、ケアに関連する資料を東西の古典文献のなかから選び、抽出したテキストの分析と解釈を行なった。研究対象となるテキストは広範な資料のなかから、本研究に直接該当するテーマに関する文献を絞り、研究領域・対象の必要以上の肥大化は避け、論旨の結論を引き出すことをめざした。テキストはできる限り原典を使用し、キリスト教関係の文献、聖書の原典であるヘブライ語、ギリシア語にあたった。原典テキストを解読するために聖書学の第一人者である Reinhard Neudecker (ローマ教皇庁立聖書研究所教授)を海外共同研究者に迎え、専門的知識の提供を受け、本研究の土台となる文献研究の基礎固めをした。

(2). 日欧におけるターミナル・ケアの実際についての情報の集積と実地調査:

死の臨床とケアの思想的基盤がその実践にいかに関係しているかを把握するために、日本とヨーロッパでの調査(視察、インタビュー、アンケートなど)を行なう。死の臨床とターミナル・ケアの現場での生の声を収集を目的とするアンケートの実施対象者は、ホスピス、緩和ケア病棟にいる人々、入院患者、およびケアにあたる医療関係者(医師、看護婦)、スピリチュアルケアに携わる宗教関係者(神父、牧師、精神的カウンセラー)である。ヨーロッパでの調査を円滑に実施するため、申請者の知人であるドイツ在住の医師、医学者の二名を海外共同研究者とし、現地での協力体制を固めた。ドイツ、フランスにおけるアンケートの使用言語はドイツ語、英語、フランス語であった。アンケート内容は質問に回答する形式と自由記述形式の両形式をとる。結果を統計し、整理した。記述式質問については、質問事項に沿って意見の一般的な傾向を分類した。

(3). 死の臨床とケアについての比較思想的論究:

死の臨床とケアについての思想的基盤とその実践についての比較思想的論考を進める。東西の思想的・宗教的背景が死の捉え方とターミナル・ケアの実践にどのような影響と特色を与えているかを分析する。日本とヨーロッパにおける死についての理解をめぐる類似点と相違点を明らかにし、日欧のターミナル・ケアの特徴と目的について論考した。

4. 研究成果

文献学的研究: 死の臨床とケアの思想的基盤を明らかにするために、まず東西の古典のなかから死とケアに関係のある資料、テキストを収集し、それぞれの文献のなかから死とケ

アについての思想が表れている箇所を抽出し、比較検討し、死とケアの思想的な基盤となっているか明らかにした。旧約聖書、新約聖書、キリスト思想、現代の実存哲学の文献の中からキリスト教思想における死、苦難、隣人愛、十字架、復活、希望などの聖書的テーマがどのような点で死とケアの思想的な基盤となっているか解明した。現代ヨーロッパの思想において限界状況、死に臨む存在、不安、病といった実存的テーマが死をめぐる現代人の考察と理解にどのような影響をもたらしているか検討した。死の臨床とケアの思想的な背景・基盤がどのように実践されているかを調査した。国内では病院、ホスピスなどの関連施設で調査を行ない、2010年3月〜4月にかけて、ドイツとフランスへ実地調査に出向き、現地の関連施設で死の臨床とキリスト教との関係を調査した。ドイツ、ビュルツブルク(Wuerzburg)大学附属病院において「魂のケア」(Seelsorge)という部門を訪ね、魂のケア、スピリチュアル・ケアがどのように行われているか、視察、インタビューを実施した。ドイツ連邦共和国の憲法140条に、病院、軍隊、刑務所、その他公共の機関において宗教的礼拝と魂のケアへの要求があればそれに対して宗教団体が宗教的な行為を実施するのを認めなければならない、と明記されていることから、ドイツの国立の病院においても、「魂のケア」が死の臨床の場で果たしている役割が大きいことがわかった。フランスではカトリックの巡礼地、ルルド(Lourdes)を訪ね、病院、医務局、沐浴場などで調査、インタビューを実施し、キリスト教と病、死、いやし、苦しみとの密接な関係が明らかになった。死の臨床とケアの根底を支えるものとしての死の思想史についての文献学的研究をおこなった。人間はどのように死に向き合う存在なのか、また死

を看取る側に求められるケアの実践はいかにして可能であるか—これらの問いに答えるために、東西の古典文献のなかで死の哲学、思想が取り上げられている主要なテキストを収集し、現代の実践的な諸問題と関連づけて考察した。死と生を一つの連続したものとして理解し、死に向き合うこととケアの営みが、「人間の生」、「生命・生活・生涯」と密接に関わるものであり、多くの思想家にとって死について考察することはよく生きることへと結びつくが本質的なテーマであることがわかった。海外共同研究者から特に聖書における死の理解と実践について、また聖書に見られる癒しと病者への関わりについて専門的知識の提供を受け、討議を重ねた。さらに比較思想史の見地から死と癒しをめぐる東西の思想・宗教の横断的な地平を考察し、二元論的な生と死についての西洋哲学の理解は、生と死を連続するものとして捉えようとする仏教の死生観と異なることも明らかになってきた。西洋と東洋の死生観の違いが、終末期の患者を受け入れている医療機関、ホスピスでどのように具現されているかを調べるために、国内の仏教経営のビハーラのホスピス、ならびにカトリックのホスピスを訪ね、インタビュー、調査を実施した。死の臨床とケアをめぐる問題は現代社会において非常に関心の高いテーマであり、学際的研究においても取り上げられる機会が多い。しかしながら、死の臨床とターミナル・ケアのルーツをその思想的・宗教的な基盤に遡って解明し、実地調査を踏まえた上で、比較思想史研究に発展させようとする試みは日本においてはこれまでほとんど見られなかった。その意味で本研究は、死生学や死の臨床学において光のあてられることが少なかった思想的・宗教的基盤を明らかにしようとする点で、国内でも幾つかの研究

集會に招かれ、注目を集めた。また思想史研究に文化横断的、臨床学的アプローチをもつ新たな思考法を導入しようとする挑戦的な意図は、ドイツ、イタリアをはじめとするヨーロッパ諸国でも関心をもたれ、代表研究者はドイツ、スイス、イタリアで研究成果を発表する機会を得られた。また、現存する日本のホスピスや終末医療のありかたはその多くが欧米からの直輸入的な方法にもとづいているが、日本的なターミナル・ケアのありかたを思想・宗教・文化の面から議論を進めることを期待し、将来的には東日本大震災との関連で、さらなる研究計画を構想している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

1. Kaori Suzawa, Reinhard Neudecker, According to the Level of Each and Every One: Rabbinic Commentaries on the Self-Revelation of God on Mount Sinai in the Light of Sufi and Zen-Buddhist Text, ノートルダム清心女子大学紀要、文化学編、査読有、34 巻、2010, 37-43.
2. 須沢かおり, エディット・シュタインにおける教育論の展開, ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所年報, 査読有、22 巻、2010, 68-83.
3. 須沢かおり, 死に臨む言葉 (I), カルメル, 査読有、339 巻、2011, 39-47.
4. 須沢かおり, 死に臨む言葉 (II), カルメル, 査読有、340 巻、2011, 25-32.
5. 須沢かおり, 死に臨む言葉 (III), カルメル, 査読有、341 巻、2011, 35-42.
6. 須沢かおり, エディット・シュタインの霊性における死と再生, 上智大学人間学紀要、査読有、41 巻、2012, 149-178.

[学会発表] (計 1 件)

[図書] (計 1 件)

須沢かおり、他 11 名、オリエンズ宗教教育研究所『学校と教会での宗教教育再考』、2009, 320.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

須沢 かおり (SUZAWA KAORI)
ノートルダム清心女子大学・文学部・教授
研究者番号：50171195

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

